

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 今宿教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	8年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの特性や困りごとの合わせた紙ベースでの学習とタブレット学習の取り組み	タブレット学習で分からないところや苦手のところを把握し、カリキュラム(紙ベース)学習にて詳しく丁寧に取り組みを行うことで苦手なところの克服や、得意なところを伸ばすことができる。	カリキュラムについては、面談のたびに保護者様にどこが苦手なのか得意なのかを聞き取りし、取り組み内容に反映させていくことでさらに充実を図ることができる。
2	生徒さんそれぞれに合わせた支援を行う人員配置	理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が在中しており、それぞれの得意不得意に合わせた支援が行えている。	様々な道具を積極的に取り入れ、本人たちが苦手としていたところの克服や、見だせていなかった得意に気が付くことができるように支援を行う
3	保護者様との連携	トラブルがあった際や生徒さんとお話をしたことで涙を流したり、職員が事の危険性などを比較的厳しく伝えたことについては、保護者様にお伝えをするとどの教室でも認識がある。	トラブルがあった際に生徒さん本人から最初に聞くよりも、職員から正直に話して解決をしていることを伝える方が誤解が生まれにくいので、今後も小さなことでもトラブルについては必ず報告をする。 また、頑張ったことや初めてできたことなどがある際には生徒さん本人の前で保護者様にお伝えする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	卒業後の生徒さんの進路についてサポートしきれていない	小学校からエフを利用されており、中学校に上がるタイミングでその生徒さんのために情報共有が必要ならばできることを保護者様や学校側にもこちらからお伝えができていない。	学年が上がるタイミングや環境が変わるタイミングで、情報共有が必要な場合は担当者会議を開催できることや協力できることがあると伝える必要がある。 面談時や送迎時にお伝えが可能。
2	人員不足	お迎えに行く小学校の数が多く、人員不足を感じることもある。また、帰りの送迎でもその日によっては職員の急遽の休みなどで人が足りずに6名を一人で送迎することもある。また、送迎範囲が広いことで複数台送迎を出すことがほとんど。交通状況によっては教室への戻りが遅くなることもある。	人員の補充 パートさんの時間を帰りの時間まで延長できないか検討 バイトの方の受け入れを行う
3	第三者からの評価の共有	内部での反省や共有などは行っているが、それが外部から見た時にどのような問題点があるのか、違う視点で見てもらうことで気が付けることもある。	運営指導などで指摘を受けたことに関して、全職員に開示したり、第三者からの意見を取り入れ会社全体で風通しの良い雰囲気を作る必要がある。